

平成 28 年度

福祉教育読本「ともに生きる」感想文集

福祉絵画コンクール受賞作品集

ともだち



社会福祉法人 宗像市社会福祉協議会

はじめに

福祉にかかわる心は、大人になって急に芽生えるものではありません。幼児期からの生涯学習のなかで育まれるものと考えています。

宗像市社会福祉協議会では、福祉教育を地域福祉計画の一つの柱として掲げ、事業を推進しています。この事業の一つとして、毎年、福祉教育読本「ともに生きる」の感想文と福祉絵画を募集し、「市民活動交流まつり」の日に合わせて、優秀な作品に対して表彰をしています。

「ともに生きる」感想文は、市内小学校五年生全員に応募していただき、福祉絵画には、市内の保育園・幼稚園から高校生まで約470名の参加がありました。これらの作品は、いずれも心温まる思いやりや、福祉の心にあふれる素晴らしいものでした。

この福祉事業の推進に当たりましては、先生方をはじめ、たくさんの方々関係者にお世話になり、まことにありがとうございました。

なお、この事業に用いた福祉教育読本にかかる経費などには、赤い羽根共同募金による配分金が充てられており、共同募金がこのようなところにも使われていることをお知らせしながら、皆さまの日頃からのご協力に厚く感謝申し上げます。

平成二十九年二月

宗像市社会福祉協議会 会長 福本義雄

福祉教育読本「ともに生きる」感想文 目次

☆	会長賞	「ともに生きる」を読んで	赤間小学校	松嶋 紗那	6
☆	金賞	「声になやまされた日々」を読んで	赤間西小学校	鬼束 杏菜	7
☆	金賞	「不便だけれど、不幸だとは思わない」を読んで	赤間小学校	延原 愛子	8
☆	銀賞	「ともに生きる」を読んで	自由ヶ丘小学校	今村 優里	8
☆	銀賞	「野球大会」を読んで	日の里東小学校	吉村 光矢	9
☆	銀賞	「ともに生きる」を読んだ感想文	自由ヶ丘小学校	北殿 陽菜	10
☆	銅賞	「ともに生きる」の感想文 く私の妹く	自由ヶ丘小学校	大庭 日菜子	11
☆	銅賞	障害は不幸じゃない	南郷小学校	上田 花菜	12
☆	銅賞	だれもが楽しく生きていくために	東郷小学校	大塚 宗汰	12
☆	銅賞	「野球大会」を読んで	河東小学校	日高 晃輔	13
☆	最優秀賞	「親切のつもりでも」を読んで	吉武小学校	山田 直輝	14
☆	最優秀賞	「親切のつもりでも」を読んで	赤間小学校	野口 幹太	15
☆	最優秀賞	ともに生きるの「野球大会」を読んで	赤間小学校	江熊 奨伍	15
☆	最優秀賞	想像もできない事	赤間小学校	浮嶋 翔	16

☆	最優秀賞	みんな恵まれている	赤間西小学校	水口 弥恵	17
☆	最優秀賞	受け取り方によって変わる言葉	河東小学校	中川 真優	18
☆	最優秀賞	体が不自由でも	河東小学校	吉田 桜都	19
☆	最優秀賞	「親切のつもりでも」を読んで	河東西小学校	山崎 惣楽	20
☆	最優秀賞	「ともに生きる」	河東西小学校	山村 妃菜	20
☆	最優秀賞	子供の権利	東郷小学校	荒牧 広太郎	21
☆	最優秀賞	「知らなかったですむことじゃない」を読んで	東郷小学校	大西 杏奈	22
☆	最優秀賞	「かずお君の本、きれいやね」を読んで	日の里東小学校	畠山 周大	23
☆	最優秀賞	「かずお君の本、きれいやね」を読んで	日の里西小学校	舩越 千裕	24
☆	最優秀賞	「ともに生きる」を読んで	日の里西小学校	入佐 真央	24
☆	最優秀賞	「親切のつもりでも」を読んで	自由ヶ丘南小学校	渡 心南	25
☆	最優秀賞	「のぶお君おめでとう」を読んで	自由ヶ丘南小学校	都甲 壮瑛	26
☆	最優秀賞	「親切のつもりでも」を読んで	玄海東小学校	和田 三季	27
☆	最優秀賞	「不便だけれど、不幸だとは思わない」	玄海小学校	深田 大翔	27
☆	最優秀賞	「わたしのクラスのさっちゃん」	地島小学校	瀬戸 山円	28
☆	最優秀賞	「老人ホームへの遠足」を読んで	大島小学校	藤島 海琴	29

福祉絵画コンクール受賞者 目次

金賞

☆ 中学生の部	希望	日の里中学校	石村 光平	32
☆ 小学(高学年)の部	思いやり	日の里東小学校	大藪 幸歩	32
☆ 小学(低学年)の部	おつかれ おじいちゃん	自由ヶ丘南小学校	藤木 暖人	32
☆ 幼児の部	おとうとのしょうちゃん	東郷信愛幼稚園	川上 莉子	33

銀賞

☆ 中学生の部	笑顔の花	中央中学校	今井 直	33
☆ 中学生の部	支えあい	大島中学校	船越 汐未	33
☆ 小学(高学年)の部	手話で「がんばって」 思いよとどけ	南郷小学校	須藤 梨湖	34
☆ 小学(高学年)の部	目の見えない人	日の里東小学校	山下 裕士	34
☆ 小学(低学年)の部	おせきどうぞ	吉武小学校	山下 愛未	34
☆ 小学(低学年)の部	おじちゃんとおさんぽ	東郷小学校	池田 実央	35
☆ 幼児の部	うみのともだち	浄徳寺幼稚園	高原 秀介	35
☆ 幼児の部	じいじとばあばは むしとりめいじん	日の里幼稚園	中川 結愛	35

銅賞

☆	中学生の部	やさしきで笑顔を	河東中学校	伊東 萌	36
☆	中学生の部	助け合う心	大島中学校	宮本 勇翔	36
☆	中学生の部	思いやりあふれる未来へ	河東中学校	重見 綾音	36
☆	小学(高学年)の部	思いやりを大切に	日の里東小学校	吉武 颯音	37
☆	小学(高学年)の部	福祉の風船	日の里東小学校	磯部 皓喜	37
☆	小学(高学年)の部	助け合う	日の里東小学校	藤田 啓祐	37
☆	小学(低学年)の部	はなたばをありがとう	河東小学校	窪山 みなみ	38
☆	小学(低学年)の部	気をつけて、わたろうね	自由ヶ丘小学校	加藤 咲太郎	38
☆	小学(低学年)の部	花火	河東西小学校	馬場 一輝	38
☆	幼児の部	おはなのみずやり	野ばら保育園	上野 光空	39
☆	幼児の部	おいしくなあれ(おはなのみずやり)	野ばら第二保育園	服部 佳介	39
☆	幼児の部	おじいちゃんと買い物に行きました	かとう保育園	渡邊 梨央	39

会長賞

「ともに生きる」を読んで

赤間小学校 松嶋 紗那

私は、ともに生きるを読んで、自分は親切にしているつもりでも、相手の心を傷つけてしまっているのではないかと考えました。また、障がいがある人と障がいがない人とを差別してしまっていないか不安になりました。そしてこれからは今よりもっと、友達や家族の気持ちが一番に考えてあげられるようになりたいと思いました。

私はこの本を読むまで、友達や家族に対して親切に行動できた時、友達や家族の心が傷ついてしまっているかもしれないと、考えたこともありませんでした。しかし、この本を読んで、改めて考え直しました。これからは、相手がうれしい気持ち

になるかどうかや、自分だったらどういう気持ちになるのかを考えて行動したいと思います。

ともに生きるを読んで、最も印象に残っている文章は、「親切のつもりでも」です。左目が悪く、ボールを落としてしまったゆかりちゃんに対して、「ゆかりちゃんだけは……」という言葉がありました。私はその言葉が強く印象に残りました。ゆかりちゃんは、他の友達と同じようにかかわってほしいと思っていることが分かりました。

しかし、ゆかりちゃんと違う立場にあるとし子さんは、まさかゆかりちゃんがそんな気持ちになっっているとは気づいていません。

私はこの文章を読んで、ゆかりちゃんもとし子さんもどちらも悪いとは思っていません。私もとし子さんの立場だったら同じように言っていたかもしれません。自分の気持ちは、自分だけしか分からないので

す。だからこそ、自分がもしもいかなことがあったりしたら、自分の気持ちを友達や家族に話そうと思いません。私は、「親切のつもりでも」を読んで、相手の気持ちや心がどのように感じるかを考えて生活してこうと改めて思いました。人のことを見た目だけで判断するのでなく、その人の「生き方」を見たり感じたりしていきたいと思いました。

以前私が読んだ本のことを思い出しました。いやなことがあったり、いじめをされたりして声が出せなくなってしまう主人公が登場します。その主人公は、そばにいた友達や家族が支えてくれることによつて声を取り戻しました。もし一人ぼっちだったら、声は出ないままだったかもしれません。

私にとって、友達や家族はとても大切な存在です。友達や家族に支えられているからこそ今の自分があると思います。いつも支えてくれる

友達や家族に感謝します。

金賞

「声になやまされた日々」を読
んで

赤間西小学校 鬼束 杏菜

私は「声になやまされた日々」を
読みました。この話は、養鶏の仕事
をしていた方が仕事のなやみから
統合失調症という病気になっ
てしまい、長い年月をかけて治りようを
続けて立ち直るお話です。

統合失調症という病気はこのお
話を読んで初めて知りました。この
方は、色々と思いなやみ、ねむれな
い日が続きました。そして、耳元で
「声」のような物が聞こえ、その「声
」にとらわれて、何もできなくな
ってしまったのです。

この病気を治すためにはまず、病
気に負けない強い気持ちを持つこ
と。次に、根気よく治りようを続け
ること。そして、回りの人達が温か
い目で接すること。最後に、あきら
めずに応援して支えてくれる、家族
が必要だと、筆者は伝えていきます。

私は、四年生のときに、目が不自
由な人との交流で点字体験をしま
した。その体験で、点字を使って生
活をすることはとても大変だと感
じました。その人達は、目が不自
由だと思えないくらい、点字を読みと
り、ふつうにお話をされていました。
自分がかもし、その立場だったら、同
じようにできるのか、少し不安にも
なりましたが、勇気をもらいました。
不自由なことがあっても一生け
んめい生活しているということ、
「障害や病気に負けないんだ!!」と
いう強い気持ちがあるからだと思
います。

筆者は、自分の治りようも続けな

がら、同じ病気で苦しんでいる人の
ために、何か役に立ちたいと、こう
した人達が、働く場所、「共同作業
所」を作ろうと、準備を進めていま
す。

成功してほしいと、心から思いま
す。

統合失調症という病気は、まだ何
が原因なのかはつきりとはわから
ないらしいのです。精神的な病気を
治すためには、長い年月がかかって
しまいます。

この話を読む前だったら、そうい
う病気の人にどう声をかけてよい
のかわからず、さけてしまっていた
かもしれせん。

でも、今はもし自分の回りに何か
に苦しんでいたたり、なやんでいる人
がいたら、気にかけて、声をかけた
りしてやさしく接していこうと思
います。そして、何か手伝える事が
あれば力になりたいです。

これからも友達を大切にし、楽し

い学校生活が送れるように思いやりを持って行動します。

金賞

「不便だけれど、不幸だとは思わない」を読んで

赤間小学校 延原 愛子

今、わたしには障がいがありません。この話の主人公は障がいがあるけれど、自分が不幸だと思っていない。それは、とても前向きでいいなと思いました。同時にわたしは、この主人公のことを、かわいそうだとも思ってしまう。それはきつと、自分には障がいがなく不便もない、障がいがある子はめずらしい、という考えをもっているからだと思います。しかし、この話を読むと、障がいがある人の気持ちを、少しで

すが理解することができました。

わたしは、この話の最後の一文が、とても心に残りました。

「でも、すばらしい友だちに支えられて生きていることを思うとき、わたしは、むしろ幸せさえ感じるのです。」

この一文は、障がいがあっても、友達に支えられて幸せだ、ということでしょう。この子の周りの子は、とても優しさをもってせつすることとは大切なことだと思います。この先、障がいがある友達ができるかもしれない。その時はこの話で学んだことを思い出して、優しくせつしたり、自分に出きることをしたりしたいです。

また、事などでわたしが障がいになってしまうかもしれません。その時は、この話の主人公のように前向きに生きたいです。

銀賞

「ともに生きる」を読んで

自由ヶ丘小学校 今村 優里

一つ目の「親切のつもりでも」というお話は、私と同じ小学五年生のゆかりちゃんが、目に障害を持っています。ゆかりちゃんは、とても強い子です。いくら左目が悪くても右目は見えるからと自分に言い聞かせていました。みんなに迷わくをかせないようと必死でがんばっています。私もし、ゆかりちゃんと同じ立場だったら、こんなにがんばれるかどうか、はつきりいつて分かりません。もしかすると、お母さんに「なんで私だけ左目が悪いの。」と、文句を言ってしまうかもしれない。私なら、とし子さんのように人に優しい言葉をかけられたら、泣いて喜んでしまうと思います。でも、

ゆかりちゃんは違いました。家に帰ってきて泣いてしまいました。ゆかりちゃんは、うれしくて泣いてはなく、悲しくて、くやしくて泣いてしまいました。「ゆかりちゃんだけは。」その言葉が頭からはなれなくなっ
てしまいました。ゆかりちゃんは、とし子さん
にみんなどと同じように扱ってほしかったのです。としさんは、必死でがんばっているゆかりちゃんからすると、差別されているように思ってしまった。もしかして、としさんからすると、親切なのかもしれません。なんとなく分かっているけれど、できれば言葉にしてほしくなかったのだと思います。私なら、そう思います。としさんには、特別扱いしてほしくない、そう言いたくなる気持ちがよく分かります。

ゆかりちゃんもとしさんもが
んばり屋さんで、真面目だと思いま

す。私も実は、コンプレックスがあります。ゆかりちゃんと同じです。今一番気になることは、みんなから置いて行かれている気がすることです。教室に入って、本当はみんなと一緒に勉強をしたいと思っ
ています。みんなと一緒に楽しく仲良く遊びたいと思っています。みんなよく頑張っているけれど、キャン
プに参加したいと思っ
ています。私は、ゆかりちゃんやとしさんのように強くないけれど、少しでもみんなに近づけるように、二学期をがんばりたいと思っ
ています。お母さんに言われている「朝起きること」から、学校では「一生けん命勉強すること」をがんばってしたいです。ゆかりちゃんに負けないように、キャンプに行けるようがんばります。

銀賞

「野球大会を読んで」

日の里東小学校 吉村 光矢

ぼくはこの本を読んで、試合に出場できないつらさと応援に行けないつらさ、大好きな野球ができないつらさを感じました。そのことから、三つのことを学びました。

一つ目は「努力し続けること」です。ひろしさんに悲劇が起きる前までは、日々野球に取り組んできたのに、交通事故にあつてから生活が変わって野球ができない状態になりました。その後は、リハビリを続けるけれど、足だけは治りませんでした。このつらさは、自分にも少し分かります。なぜなら、自分もケガをしています。試合に出場できなかった経験があるからです。しかし、ぼくとひろしさんでは、一つだけ大きなちがいが

あります。それは、ひろしさんみたいにケガが早く治るように努力していないことです。だから、ぼくは、努力を続けているひろしさんがとてもすごいなと思いました。

二つ目は、「優しさ」です。ひろしさんはリハビリ後、車いすでの生活になり、学校にも通えるようになりました。野球大会の応援に行きたいという気持ちを抑え、周りのことを考えて応援に行かなかったことに優しさを感じました。応援に行かなくても、家の中でお気に入りながらチームの勝利を望んでいたと思います。

三つ目は、「感謝」です。ひろしさんが努力し続けることができたのは、車いすをおしてくれたり励ましたり声をかけてくれたりする友達や、どんな時もそばにいてくれたり食事などの世話をしてくれたりする親の支えがあったからだと思

ます。

自分もひろしさんみたいにサッカーができるように、柔軟や走りこみを続け努力し、仲の良い友達を作り、お互いに優しくし合ったり、頼り合えたりできるようにしたいです。そして、夢であるサッカー選手になれるようにいつまでも夢に向かって走り続けたいです

銀賞

「ともに生きる」を読んだ感想文

自由ヶ丘小学校 北殿 陽菜

私は、この「ともに生きる」の本を読んで一番心にのこった話は、「わたしのクラスのさっちゃん」です。このお話を読んでみて、私は、しょうがい者の心がきずつくよう

な言葉は言っではいけないこと、人をさべつしてはいけないことをあらためて知りました。

この本を読む前の私はしょうがい者のことなど全く考えたことがありませんでした。けれども、この本を読んでこの世の中にはしょうがい者はたくさんいて、しょうがいのあるところ以外は、みんなおんなじなんだということをあらためて感じました。

もし、私がさっちゃんやしょうがい者のたちばだとして、きずつくような言葉を言われたりしたら自分の自信がなくなり、あるものすべてがこわくなってしまつて一歩も外にでれなくなつてしまうのに、さっちゃんたちはとつてもすごいと感じました。なので、私は、どこかでこまっている人がいたらたすけてあげたり、なやんでいる子がいたら話をきいてはげましたりだれかのやくにたてるようなことをしたい

です。しょうがい者がいきいきと生きていくには、周りからのあたたかい言葉がやっぱり必要だと私は思います。

最近、テレビでしょうがい者の殺傷事件や目の不自由な人が駅のホームから落ちて死亡した事故などのニュースをききますが、それも全部周りからのあたたかい声かけや、やさしさがなかったからあんな大きな事故がおきたのだと私は思います。目の不自由な人が駅のホームから落ちて死亡した事故は、事故が起る前にだれかがその人に声をかけていればあんな事故は起こらなかったと思います。なので私はこれから、みんなでしょうがい者が安全にいきいきと生きていけるような世の中をつくっていききたいと感じました。私は、この「ともに生きる」の本を読めてよかったと思います。

銅賞

「ともに生きる」の感想文

私の妹

自由ヶ丘小学校 大庭 日菜子

私はともに生きるの感想文を読んで一番心に残ったお話は、「私の妹」という話です。

このお話はまり子ちゃんという四才年下の妹の知的障害についてのこと書かれています。読んでいる時、最初は「かわいそう。」と書いていきましたが、周囲の人のやさしさや家族の愛情、勇気からまり子ちゃんが成長していくのを読んでも感動しました。私はこれまで障害のことはよく知っているつもりでした。それは私のいところにも障害をおっている子がいるからです。そのいとこは私と同じ五年生で「ダウン症」という障害をもっています。

うまく言葉が話せないし、大変なことがたくさんあるけどみんな彼の成長をあたたかく見守っています。障害をもつていてもつらいことばかりではありません。けれども、障害をもっている子どもたちがもっと楽しく幸せにくらせるように、障害のことをかんたんに考えたり、あまく見たりせずにみんなで理解して考えることが大切だと思います。

私の学校にも、もしかしたら「いじめ」や「差別」などをしている子どもがいるかもしれません。けれど、私は絶対に同じ人をいじめたり、差別したりせずにそれをとめられるような人間になりたいと強く思いました。私は障害をもっている人にとってちょっとでも心の支えになれることがあったら、進んで全力でやりたいです。

銅賞

障害は不幸じゃない

南郷小学校 上田 花菜

私は、ともに生きるを読んで、「不便だけれど、不幸だと思わない」というお話が、一番心に残りました。私は、今まで「障害者はかわいそう」という考えを持っていました。けれど、このお話を読んで、「障害があるからといって、決して、不幸とは限らない。」と考えを改めました。

私は、この話でちよう覚障害者が読話をよみ取る事がどれだけむずかしいかが分かりました。私は三年生の時に手話を使って歌を歌ったり、会話したりしました。その時に、手話がむずかしかつたので、その手話を日常の会話として使えることはずごいなと思いました。また、こ

のお話を読んで、「障害があっても、会話できる方法は、まだまだあるんだな。」と思いました。

もし私がこの話の主人公と同じクラスだったら、障害のある人も、ない人も楽しくすごせるクラスにしたいです。そのために、今、南郷小学校でとりくんでいる「ぼかぼか言葉」の取り組みをがんばりたいです。南郷小学校を「ぼかぼか言葉」や「ぼかぼか行動」でもっといっばいにして、友だちといっしょに楽しくすごしたいです。

私は、「障害があっても、みんな同じ命を持っている。だから、いじめや差別は、あってはいけない。」と思いました。

「全てのの人に平等な命がある。」それが私の考えです

銅賞

だれもが楽しく生きていくために

東郷小学校 大塚 宗汰

ぼくは、「野球大会」という題名を見て、自分も野球をしているので興味を持ちました。どのくらい活やくするのかな。試合に勝てるのかなと思っていました。

しかし、この話はそうではなくて、ひろしという野球が大好きな男子が事こで足が不自由になり、四年後の小学校野球大会の応えんに行く時、ひろしにとってたくさん不自由なことがあり、ひろしも自分はいわくになるのじゃないのかと考えて、行けなくなった話です。

野球が好きなのにたった一しゆんの事こで、一生野球ができないくやしさと悲しさがあつたと思いま

す。ぼくもそうだったらと思うとぞつとします。

会場にいす式のトイレがないと分かったとき、ひろしは心配から失望に変わったそうです。

そういわれると、ぼくも野球の試合に行った時、会場には、いす式のトイレはなかったし、気にもとめなかったです。ほかに、階段が多くて、スロープがなかったと思います。ぼくが、もしも車いすに乗っていたら、グラウンドに入ることさえいやになります。

今は、自動はんばいきが車いすの人やとどかない人のために低くなったり、目が不自由な人のために音声であん内しているところができきました。けれども、まだまだ不自由な人のためのしせつがせつ置されてない所もあるし、せつ置することに理解がない人もいます。

ぼくは図書館で、目が不自由な人のことを書いた本をかりたことが

あります。その本には、その人の気持ちになることが大切だと書いてありました。それは、車いすの人も耳が不自由な人も同じだと思いません。

そのためには、ぼくはまずたくさんの人に不自由な人はこんなにもこまっつて、つらい思いをしているということを知らせたかったです。

そして、ひろしのような人たちが楽しくえ顔になれるようにぼくたちは、おたがい理解し合えばいいと思います。

銅賞

「野球大会」を読んで

河東小学校 日高 晃輔

ぼくは、野球大会を読んで、バリアフリーをもっとたくさんふやし

たほうがいいと思いました。

その理由は、みんな同じ人間なのに、段差やいす式トイレがないという事で、足が動かせなくなってしまう人などが自由に色々な場所に行けなくなり、楽しみもなくなる事が、平等ではないと思ったからです。

もし、ぼくがひろしだったら、段差などで自由に動けなくなったら、とても悲しくて、これから、どういうに生きていけば、いいのだろうか、とても落ちこんで家にずっと閉じこもってしまうと思います。

あと、車いすの人をじろじろ見たり、こつそり見たりする人は、おかしいと思います。足をけがしたり、病気などで足が動かなくなったり、手足が不自由になってしまっただけで、みんな同じ人間なので、じろじろ見たりするのは、とてもおかしいと思ったからです。

ぼくが大人になったら、市役所な

どに、段差をスロープにする、いす式トイレをふやすなどのバリアフリーをもっとふやしてほしいと願います。

あと、足が不自由でも、目や耳が悪くてもみんな同じ人間だということをお小さい子に伝えていきたいです。

日本がもっとバリアフリーをふやして、日本が車いすの人でも世界で一番くらしやすい国になったらいいなと思います。そのため車いすの人がこまっていたら、やさしく声をかけるなど、簡単なことからしていきたいと思います。

最優秀賞

「親切のつもりでも」を読んで

吉武小学校 山田 直輝

ぼくは、このお話を読む前は、だれも困っていないくて、とても仲のよい話だと思いました。

だけど、このお話を読んで、ゆかりちゃんはつらくて、悲しい思いをしていたので、かわいそうでした。なぜかという、ゆかりちゃんは、「目が悪いからボールを落として」も許してあげる。」と言われて、自分だけ仲間はずれにされている感じがあると思ったので、かわいそうでした。

ぼくは、ゆかりちゃんと同じ立場だったら、ミニ・バスケットボールの練習をやめていると思います。それは、ゆかりちゃんが練習をやめたと思うくらい、つらくて悲しい思いをしているから、ぼくはその気持ちにたえきれなくなっていると思います。

でも、ゆかりちゃんはすぐにやめずに、とし子さんに、

「このわたしを特別あつかいし

ないで。ほかのみんなと同じようにあつかってよ。」

と、とし子さんに言いたいと思う気持ちには、すごいなあと思います。その理由は、ゆかりちゃんは、左目が悪くてほとんど見えないのに、特別なあつかいをしないでというには、とても勇気があることだし、左からボールがきて本当にボールが見えなくても、ガミガミ言われてもいい、という覚悟があるから、こんなことを言いたいんだらうなあというゆかりちゃんの気持ちがすごいと思ったからです。

ぼくがこのお話を読んで思ったことは、目が悪い人がいても、共に過ごすには、どのようなことをしたらいいか、そしてもし、ぼくが目が悪くなったら、自分の意見をしっかりと相手に伝えることが、共に生きるためには大切だと思いました。これからは、「親切のつもりでも」の話を生活に活かせるように、日々すご

していきたいと思えます。

最優秀賞

「親切のつもりでも」を読んで

赤間小学校 野口 幹太

ぼくは、「親切のつもりでも」が心に残った。なぜかというところぼくは一人だけというのが自分だけというのがすごくいやだからです。ぼくも同じ様な出来事がありました。

ぼくは、三年生の夏の暑い日に友達と一緒にサッカー野球をしました。他の四、五人はサッカーをしていました。みんな15mはかるくこえていました。ぼくは心の中で大丈夫かなできるかなと思っていました。その時です。

「わあーすげえー」

他の友達がすごいきよりを飛ばし

たのです。ぼくのきんちようは、ますますはげしくなりはじめました。ぼくはやめようかと迷いましたがぼくがやめれば人数が合いません。ぼくはやることにしました。

そして、ぼくの番です。一、二回のチャンスでした。いっしょうけんめいけって得点を取ってやろうと心の中で思いました。すると、コロコロコロ。ぼくのせいでチャンスをのがしてしまいました。その時、「いいよ。野口はサッカーしてねんだよ。」

と一人だけいやな思いにさせました。ぼくはとつてもくやしかったから、その人に別にそんなん言うなって大声でさげびたかったけど、その人はぼくのためにいつているのにときずつくかもしれない。ぐつとがまんしました。」

その時ふと思いました。一人ってこんなにさびしいんだ、悲しいんだと。だから、ぼくはその日から「差

別」に気をつけました。もし少しでも相手を一人のような思いにさしたりしたら自分から気を配ってごめんと言いたいです。そして、友達が一人な気持ちになつていたら自分からその人を一人にさせたような気持ちにさせたら声をかけてあげたいと思えます。

最優秀賞

ともに生きるの「野球大会」を読んで

赤間小学校 江熊 奨伍

ぼくはともに生きるという本の中の野球大会を読みました。

ぼくもひろし君と同じで、スポーツをしています。今まではホーム・ベースへ勇かんにすべりこんでいた足が動かなくなったら大変だろ

うなと思いました。

ぼくは、サッカーして足が動かなくなったり、プレーができない状態になったら、とても悲しいから、ひろし君は、車にひかれて、足が動かなくなったので、ぼくは横断歩道をわたる前には左右を見て、車や自転車が来てないかなど、ちゃんと確認にんしないといけないと強く思いました。

ひろし君は、足が不自由になったので、ベットのの上に起き上がることは、いつもならふつう事だけど、お母さんや病院のかん護師に手伝ってもらうことになりました。

トイレも大変になりました。足が不自由になると、日常生活の色々が大変になる事を知りました。

ひろし君は、リハビリテーション施設に入って訓練をします。ぼくは、足が思うように動かない中での訓練はむずかしいし、つらかっただろうと思います。そして、施設には、さまざまなしよう害を持った人達

がいる事も知りました。色々な訓練をしながらも、おたがいが明るくはげまし合いながら生活をする事で、ひろし君も明るくなつて、訓練をやりとげて、家にもどれてよかったです。

学校での車いす生活はつらい。体育や音楽で移動をする時には、どうしても友達の手助けを借りなければいけないし、遠足や運動会などの楽しい行事にも参加できない。

学校だけではなく、外でも、野球大会などに行きたくても、会場に車いす式のトイレがないとだめだし、道路は段差などがいっぱいあるからです。ぼくは、この本を読んで、足が不自由になった人達が、とても苦勞している事を知りました。しようがいが者の人達も豊かにくらせる街にしたいから、世界中がしよう害者の人達のためにも、もちろん元気で健康な人々のためにも、少しでも工夫ができれば、ひろし君や他の人

達も、きつとうれしいと思います。

最優秀賞

想像もできない事

赤間小学校 浮嶋翔

ぼくのまわりには、体の不自由な人は、いません。学校の授業で、体の不自由な人の体験があつたけれど、「へえーこんなかんじなんだ」くらいにしか、思えませんでした。もし、目が見えなくなつたら、もし耳が聞こえなくなつたら？なんて、考えたこともありません。今のぼくが耳が突然聞こえなくなるなんて、思っていないからです。本の中に耳の不自由な人の体験のお話がありました。文章の中に「集会や講演会は、たくさん手話通訳ではなく口話だけで進行するので、初めから、終

わりまで内容がさっぱりわかりません。まるで何もない部屋にとじこめられたような気持ちになります。そして、自分だけが別世界にいるように思えてくるのです。」と書いてありました。いくら静かなところにおいても音のない世界って想像できません。布団をかぶっても、押し入れの中に入っても、テレビや、人の声、家にいる猫のなき声、せんぷう機が、ぶーんっていう音、なにかの音が耳に入ってきます。

「音のない世界」をつくる事は、無理でした。でもその音のない世界が本当にあるのなら、まわりにたくさんの人がいても、自分はひとりぼっちだと、思うかもしれません。体の不自由な人は、いつも、元氣です。明るくて体の不自由な事なんて、なんとも思っていないように一生けんめい会話をしている印象でした。でも、この本を読んで、明るく生活できるようになるまでには、たく

さんなやんで、たくさん泣いたんだろうなと感じました。これから今までの以上にたくさんの人と会うと思うけど、もし、その中に耳の不自由な人がいたらこのお話を思い出そうと思えました。そして、「ぼくじやないから、知らない」じゃなく、ほんの少しだけでも、その人の気持ちを考えてみようと思えました。

最優秀賞

みんな恵まれている

赤間西小学校 水口 弥恵

わたしは、「まさるちゃんのいち」を読んで「世界には色々な病気の人がいて、どんな人がいてもみんな恵まれているんだなあ。」と思いました。自分は、なんの病気もしようがないのでそれが一番恵ま

れていると思っていました。でもそれは、まちがっていました。

この本は、そんなことを、教えてくれた本なので心に残りました。

そしてわたしは、「水頭症」という病気をもっと知りたくなりました。まさるちゃんのいのちにも書いてありました。水頭症というのは「頭がい骨の内部にたくさん水分がたまって、そのために頭が大きくなっていく病気です。そのまましておけば、水分が脳を圧迫して、半数は一年半未満で死亡すると言われています。」と書かれています。この病気で亡くなった方もいます。でも、その強いまさるちゃんの生命力は、この困難にたえていました。きっとこのような病気をバカにしている人達にそんな周囲の人々の努力なんてきつとわかりません。そしてまさるちゃんは、色々な物を食べられるようになって、色々な物にふれてそしてみんなに、見守ら

れながら生きているってすばらしいことだなあと思いました。どんなに重い病気やしようがいを持っていても、恵まれていない人なんて、どこにもいない、ということがわかって、とつてもよかったです。

そして、こんな事が、私の住んでいる福岡県でおこったんだなあと、思うと、むねがジーンとします。

それから、特に心に残った言葉は、「まさるちゃんのいのちが、いつまで続くかわからない。しかし、このままで終わるより、一日でも二日でもより人間らしい生活をさせてあげたい。」

というこの言葉がとても感動する言葉でした。私の中では、これは名言です。

そして最後に、私は、みんな恵まれていて、みーんな、しあわせなんだと思ひ、このお話を他にも色々な人に読んでほしいし、私もこの話をきくとわすれないと思ひます。もし

わすれてしまつても、多分心の、おのその方では、少しくらいはおぼえていると思ひます。

最優秀賞

受け取り方によつて変わる言葉

河東小学校 中川 真優

ともに生きるの本を読んで、「親切なつもりでも」について、感想文を書こうと思ひました。その理由は、今までよく自分が言葉について、考えずにいつてしまつていて、相手の心をきずつけてしまつた事があるかもしれないと思つたからです。

親切なつもりでもは、目が悪くなつたゆかりさんとその友達のとしこさんとの会話の中で親切な心づかいのつもりでも相手にとっては、

悲しくて、くやしくて目かはれるほど泣いてしまふほど嫌な言葉でした。

自分は親切なつもりで言つていても、相手をきずつけてしまふということが分かりました。もし私がゆかりさんだったら、みんなとバスケットボールがしたくてがんばつてきたのに、ボールをつい落ととしてしまったことで、他の人には、ボールを落としたらガミガミ言うのに、自分には言わないのかな？と思ひます。

「私だつて、せーいっばい練習やつてみんなといっしょにいろいろしたいんだよ。」と、としこさんに言ひたいです。そんなことを言われたりすると、ミニバスケットボールなんてやめたいと思ひます。相手のことを思つて言つたり、親切なつもりで言つていても相手にとつて嫌なことを言つてしまつていくかもかもしれないから、まず自分

がそういわれたらどんな気持ちになるかということを考えて話すことで相手にいやな気持ちをさせないと思います。

ゆかりさんのように、体のどこかが悪い人がいたら、特別あつかいをしないで他の人と同じように話しかけたり遊んだりしたいと思いません。そのわけは、特別あつかいをすることで、相手が嫌な気持ちになってしまうこともあると思うからです。

最優秀賞

体が不自由でも

河東小学校 吉田 桜都

わたしはともに生きる「わたしのクラスのさっちゃん」を読んで、悲しい顔のさっちゃんを想像すると

自分まで悲しくなってきました。

わたしは、一年生に入学する前、スーパードなどで、よく体の不自由な人を見かけていました。その時のわたしは、人の心なんてなにも考えず、心の中で、

「かわいそうに。みんなとちがう。」

と思っていました。だけど、小学校に入学して、体の不自由な人のことをたくさん勉強しました。そして初めて、体の不自由な人の気持ちも分かりました。

「みんなとちがうなんてうそ。元気だなあ。」

そして、この前、足の不自由な人をスーパードで見ました。でもわたしは、その人を、じろじろ見たり、悪口を言ったりしないで、明るく、ふつうにしました。そうすると、足の不自由な人も、いやな顔になりませんでした。だからわたしは、「わたしのクラスのさっちゃん」に出てく

る一年生に、

「おかしくなんてないよ。ふつうの明るい子だよ。」

「人の気持ちを考えてごらん。」とやさしく声をかけて、教えてあげたいと思いました。また、体の不自由な人の周りの人もへんな人と思わないで、ふつうに話をしたりすれば、みんないやな気持ちにならない、みんな笑顔でいられるとわたしはそう思います。

わたしもこれからどんな人にも、やさしく、ふつうに話をしたりしたいと思いました。また、人の気持ちをしつかり考えて、みんな笑顔になれるようにしたいと思いました。

最優秀賞

「親切のつもりでも」を読んで

河東西小学校 山崎 惣楽

ぼくは、この本の物語の中で心に残った話があります。それは、「親切のつもりでも」という物語です。

この物語は、ゆかりという左目が悪い女の子がいて、目が悪いなりにがんばっていたけど、友達の親切な心づかいがたつらくなって、それでもがんばろうとしている女の子の話です。

ぼくは、この女の子の気持ちになつてみてつらいなと思うことがあります。それは、左目が悪いなりに、みんなに世話をかけないようにがんばっていたけど、たった一回のミスで、自分が特別あつかいされたことが、とてもくやしかったんだなということ。もし、自分もゆか

りちゃんと同じ立場に立っていて、自分でせいっぱいがんばったのに、それを見てくれないで特別あつかいされたら、ぼくは、とても悲しいし、いやだなと思いました。ほかにもゆかりちゃんに共感した部分は、あります。それは、友達に言われた「ゆかりちゃんだけは、特別にゆるしてあげる。」という言葉をいわれたときの、ゆかりちゃん自身の気持ちです。なぜ、共感できるかというと、そのゆかりちゃんの気持ちを思ったら「たしかにそうだな」と思うからです。

でも、ぼくは、ゆかりちゃんには、すごい力があるんだなと感心しました。なぜかという、ゆかりちゃん、左目が見えないのにあきらめずに努力しているからです。もし、自分が左目が悪かったらすぐにあきらめているけど、ゆかりちゃんは、あきらめずにやっていたのですご

いなと思いました。ぼくは、この物語を読んで、どんな場合でも、人には平等に接することが大事なんだなと思いました。だからぼくは、これからは、どんな人にもちゃんと接していこうと思いました。

最優秀賞

「ともに生きる」

河東西小学校 山村 妃菜

私が、ともに生きるを読んで一番心に残った話は、わたしのクラスのさっちゃんです。この話の主人公のさっちゃんは、のう性小児マヒという病気なのです。この病気はなかなか歩けず、お話があまりうまくできないようです。さっちゃんは、十三才なのですが、この病気のため五年

生といっしょに生活しています。

身体そく定のとき、一年生の男の子たちにさっちゃんは悪口を言われたのです。たぶんわたしも、小さなときはさっちゃんみたいな人がおかしいと思っていたのでわたしも、悪口を言っていたと思います。小学校で、病気やしよう害の人がいて、その人だけみんなとちがうような見かたをされて、なやんでいる人がいる事を初めてしりました。その時知ってから、おかしいなあと思わなくなりました。わたしのクラスにも、友達とうまく遊んだりできない子がいます。でもその子も別に、おかしい人ではないとわかりました。わたしは、ともに生きるを読んで、いろんないやな思いや、うれしい思いをしているんだなと思いました。これからもわすれないようにしたいです。

最優秀賞

子どもの権利

東郷小学校 荒牧 広太郎

ぼくは、解説を読んで、「子どものけん利しよう約」のことを、くわしく初めて知りました。

「子どものけん利しよう約」は、すべての子どもは、健康で幸せに、育っていくというけん利があります。このけん利は病気やしよう害のある人たちも、もっています。ぼくのおねえちゃんにもしよう害があるけど、いつもここにこしているから楽しいです。世界中の病気やしよう害がある人、全員がここにこして楽しい生活をしてほしいです。ほかに、学習したり遊んだりするけん利もあります。ぼくは、学校で勉強したり友達と遊んだりできるけど飲み水がなくて遠くまであまりきれ

いではない水だけががんばってくみに行くから、学校で勉強できない人や病気で勉強ができない人がいるからその人たちが全員勉強できるようにになってほしいです。また、ぼう力を受けたりあぶない仕事をさせられたり戦争にまきこまれたりすることから保ごされるけん利も、もっています。日本では、今は戦争がなくて毎日楽しくすごせるけど戦争があつていてあぶないところがあつたり、まずしい生活をしている人もいるからその人たち全員楽しく生活できるようになってほしいです。

これからぼくは、学校などで、ぼつんと1人でいてさみしそうな人やこまっている人がいたら、いっしょにあそんだりたすけてあげたりしたいです。

ぼくは、ほかの国の人でもほかの国の人とおなじけん利をもっているのに病気や学校に行く時間がない

くて学校にかよえない人などがあ
ってけん利がまもられなくてたい
へんなおもいをしている人たちも
いるから、いつも学校にいけるとい
うことがあたりまえじゃないので
学校で毎日いっぱい勉強したりみ
んなでいっしょに遊んだり毎日た
のしくすごせていることを大切に
1日1日をすごしていきたいです。

最優秀賞

「知らなかったですむことじ
やない」を読んで

東郷小学校 大西 杏奈

わたしは、「知らなかったですむ
ことじやない」を読んで、周りの人
が気づいているのなら、だまってい
るのではなく、ちゃんと言うべきだ
と思います。でも、ちゃんと言うこ

とはとても勇気がいると思います。
なぜなら、わたしも見たことがあ
るからです。でも、同じようにいじ
められるのをさけてしまいました。
こわかったんです。

でも、この「知らなかったですむ
ことじやない」を読んで、考え方が
変わりました。これは、だれかが言
わないと変わらないと言うことで
す。ずつと言わなければこのままい
じめられ、もっとひどくなってしま
います。でも、気づいた人が「だめ
だよ。」とか「なにをしてるの、か
わいそうだよ、やめてあげて。」な
どの言葉をかけてあげれば、こんな
ことにならずにすんでいたと思ひ
ます。

でも、一番悪いのはうらで指示を
出していたまさおみくんです。

なぜなら、自分がやったことで他
人がうたがわれるのは、おかしいか
らです。自分でやったことは、自分
のせき任だから、ちがう人がうたが

われているのであれば、自分から、
先生に、「ぼくがやりました、ごめ
んなさい。」と言うべきだと思います。
これはできないことではありません
せん。だれでも、勇気があればでき
ることです。

でも、勇気がなくても、ふつうに
言える人だっています。その人はと
てもすごい人間だと思います。

これからわたしは、いじめられて
いる人を見かけたら声をかけたい
と思います。声をかけないと、一年
後にはもっといじめられて、いじめ
る人も多くなつて声をかけても、と
りかえしのつかないことになるか
らです。

だから、なんでもはやめに声をか
けないとだめなのです。声をかけた
ら、いじめがなくなるかもしれませ
ん。なくなるまで声をかけつづけた
と思います

最優秀賞

「かずお君の本、きれいやね」
を読んで

日の里東小学校 畠山 周大

ぼくは、かずお君の本きれいやね
を読んでかずおくんは、がんばって
いるけどかわいそうだなと思いま
した。なぜなら、目がみえないので、
本や人の顔も何も見えないと思っ
たからです。

でも、かずお君は目が見えない代
わりに、学校にあがる前から点字の
練習をしてきました。今ではみんな
が本を読む速さと同じくらいに読
むことができます。しかも点字だけ
でなく漢字などもほかの友だちと
同じように勉強しています。

かずお君は目が見えないのにあ
きらめずにみんなと同じことをす
るのがすごいと思いました。

また、かずお君は、けんかもする
し元気に遊びます。ジャングルジム
にぶらさがったり飛びおたりで
きます。かいせんどうや大なわで遊
ぶときは友だちの少しの協力でた
のしく遊ぶことができます。それと
少し手伝ってもらおうと走ること
もできます。

ぼくは、かずお君が少しの協力で
ほとんどのことができると思いま
した。最初は、目が見えなかったら、
何も見えないし何もできないと思
いました。でも、かずお君は、ふつ
うの友だちと同じように何でも出
来ます。だからかずお君をかわいそ
うな子と思っていただけそうでは
なくてとてもがんばっていて、すご
いなと思いました。だから目が見え
なくてもチャレンジしようと思え
ば、何でもできます。ただ、目が見
えないので周りの人の助けが必要
なこともあります。

例えば、なわとびの時のみんなの

合図やかいせんとうの時はみんな
がゆっくり回したりとめてくれま
す。

教科書は、ボランティアの人が作
ってくれます。例えば、本を作ると
したら、みんなで話の内容を考えて、
点字でその言葉を書きます。

かずお君は、周りの人の少しの手
助けで何でも出来ます。ぼくは、そ
れがとってもすごいと思います。だ
って最初も今も目が見えないのに、
目の見える友だちとほとんど同じ
ことをやっています。目が見えない
のに、かずお君は、いろいろなこと
にチャレンジしているのがとても
勇気があるなと思います。

ぼくは、ボランティアの人がとて
もえらいと思います。なぜなら自分
の仕事もあると思うのに、体の不自
由な人に手助けするのがすごいと
思うからです。

最優秀賞

「かずお君の本、きれいやね」
を読んで

日の里西小学校 船越 千裕

私が「ともに生きる」の中で一番
心に残った話は、「かずお君の本、
きれいやね」です。理由は、四年生
のとき、総合の学習で目が不自由な
人に話を聞いたたり、点字について学
んだからです。

かずお君は、点字だけではなく、
他の友達と同じように、ひらがな、
カタカナ、漢字などの墨字も勉強し
ています。回旋とうやジャングルジ
ムなどのたくさんの遊具で遊んだ
りすることもできます。かずお君の
教科書はふつうの人とはちがって、
きれいに作られています。かずお君
のことを一番に考えボランティア
の人がていねいに作っているから

です。ボランティアの人は、点字も、
さわれる絵も初めてで、とまどいな
がら作っているところに共感しま
した。

私も、点字を初めて打ったとき、
打ち方が分からずにとまどってし
まい、文字のまちがいも多かったで
す。でも、打っていくと、文字のま
ちがいもへっていったり、目の見え
ない人に読んでもらえたりしまし
た。そして、その人からは、まちが
えているところを教えてもらいま
した。点字はできたら達成感がある
けれど、完成するには、同じ持ち方
でまちがえないように打たないと
いけないので、長い文を打つときは
大変だ、と思いました。

また、実際に、目の見えない人の
体験をして、ろうかや階段を歩きま
した。目が見えない人は大変だと思
いました。でも、目の見えない人と
話をして、大変だけど、目が見えな
いだけで私達と変わっていないこ

とを知りました。

かずお君は目が見えないけれど、
まわりの人の協力があれば何でも
でき、目が見えないと分からないく
らいに生活できることが分かりま
した。私も、目が見えない人がいた
ら、自分にできることは何か考え、
協力して目が見えない人を支えて
いきたいです

最優秀賞

「ともに生きる」を読んで

日の里西小学校 入佐 真央

「不便だけれど、不幸だとは思わ
ない」

この文は私の心に一番、残りました。
この話の主人公の女の子は、耳が
聞こえず補聴器をかけていました。
この女の子はろう学校ではなく、地

元の小・中学校に通っていました。女の子はだんだんしゃべることについていけなくなり、相手のくちびるの動きや顔の表情から話の内容を読みとる読話をするようになっていきました。しかし読話はすばやく読みとらなくてはいけないので大変つかれてしまいます。

高校三年生のある日、女の子は卒業式のことを考えているうちに、自分のつらい思いをみんなに聞いてもらおうと決心しました。そして学級会にそれを出したのです。「話されていることがその場でわかる卒業式、みんなといっしょにいるのだと思えるような卒業式」とうたったえました。みんなは真剣に考えてくれました。みんなは手話通訳をつけてくれるようにと先生たちにたのみにいつてくれたのです。女の子をばげましたり、忠告したりしてくれました。そのおかげでつまづきながらもくじけずに女の子はやっていく

ことができました。

私は、一度学校で目が見えない人から学ぶ学習を受けました。私は最初目が見えない人を「かわいそう」と思っていました。でも、その人たちの生活をしてみると、「かわいそう」という気持ちではなく、「すごい」という気持ちに変わりました。なぜかという私達と同じような生活をすごく努力して手に入れていると感じたからです。話に出てくる女の子も障害者（耳が聞こえない）でした。でも、みんなが支えてくれたから、くじけずに幸せを感じながら一生けんめい生きています。

では、健康な私達は何ができるのでしょうか？ 私は、障害者の人がこまっていたら、助けたいと思います。

最優秀賞

「親切のつもりでも」を読んで

自由ヶ丘南小学校 渡 心南

この話を選んだきっかけは、「親切のつもりでも」という題名にひかれたからです。だれにでも親切にしようという気持ちを持っている人は多いと思います。もちろんわたしもみんなにやさしくできるように心がけています。しかし、その人に良いようにやろうと思っても、その人にとっては逆にいやな思いをさせてしまっている時があると思います。そういった「私もこんなことをさせてしまったら・・・」という考え深いお話です。

わたしは今のところは何も不満な所はありませんが、この話の主人公は左目が悪いです。だからといって特別に許してあげるといふこと

はとつてもかわいそうだなと思いましたが。

わたしがもし主人公だったら、同じようにとても悲しんでいたと思います。でもちがうところは、たぶんわたしは、思ったことを口に出していたかもしれない。でも、せっかく親切にしてくれたつもりなので主人公がやったことでよかったのかもしれない。だれだって親切にしてもらったつもりでもないやな気持ちだったら、きちんと「ありがとう。」と伝えることはできないと思います。ちよつとしたことでみんなとはちがって特別あつかいをされることはだれが体験してもくやしいと思います。それに、やる気なくなつて心が小さくなると思います。こういう気持ちは体験した人が一番分かることです。

わたしも今までの中でそんな気持ちにさせてしまったことがもしかしたらあるかもしれませんが、でも

これからはないようになんばつていきたいとこの「親切のつもりでも」を読んで思いました。この話をよんだのでよかったです。これからもいろんな話を読んだりしてどんどんたくさん学んでいきたいと思いません。世界がやさしさであふれることを祈っています。

最優秀賞

「のぶお君おめでとう」を読んで

自由ヶ丘南小学校 都甲 壮瑛

ぼくは、のぶお君の話を読んで、みんなといっしょに学校に行けていいなと思いました。

わけは、ぼくの家の近くにもうまく話せない友達がいてその子は今

は2年生だけどのぶお君とちがつてみんなといっしょに学校に行けずようち園の時から支援しせつに通つていて今も特別支援学校に通つています。だけど今では、していること、してはいけないことを分かるようになり言葉もだいぶ話すようになつています。そのような友達が近くにいるからこそ、しょうがいを持つ人がいるということも理解できました。

それでも世の中には、しょうがい者がいるとめんどくさいと思つている人もいます。実際、先月、しょうがい者しせつ「やまゆり園」でしようがい者が次々とさされて大勢の方が亡くなるじけんがありました。そのじけんをおこした人は、「しようがい者は世の中にいなくていい」ということを話していました。

そのじけんのはん人をぜつ対ゆるすことはできません。もしぼくがその亡くなった方の家族だったら

ゆるすことはできないし、テレビで見るとけいさつ車両の中でわらっていたからなぜわらうのか、どうしてはん省しないのかを教えてほしいと思います。このような事が今後ぜったいに起きてほしくないという事を、みんなは思っているので、これから起きないようにしてほしいです。

この学習を通してしよがい者ががんばっているという事も分かったから、これからもしよがい者がこまっていたら助けていきたいと思いました。

最優秀賞

「親切のつもりでも」を読んで

玄海東小学校 和田 三季

わたしは「親切のつもりでも」と

いう話を読みました。この話を選んだのは、この話が左目にしよがいがあるということでした。わたしも目に病気があからずです。

この話は、ゆかりさんが主人公の物語です。ゆかりさんは、左目にしよがいがある人です。そしてゆかりさんは、市内体育祭に出るという理由でミニバスケットボールの練習をします。

わたしがこの本を読んで、いちばん心に残ったところは、ゆかりさんが練習を失敗したとき、とし子さんに「ゆかりちゃんだけは特別に許してあげる。」といわれ、悲しくて、くやしくて、目のはれあがるほど泣いていたところでした。わたしはこの部分を読んで、ゆかりさんがとてもかわいそうでした。とし子さんの気持ちはわかるけれどその言葉がゆかりさんをきずつけているとわかりました。わたしも「ゆかりさんだけ特別あつかいしないでほかのみ

んなと同じようにあつかって。」と
いいたいと思いました。

なぜなら、もしわたしがゆかりさんと同じような立場だったらと考えると、くやしくて悲しくてとても泣きたくなるような思いだろうと思うからです。

わたしはこの話から、しよがいをもっているからといってやっぱり差別はだめだと思います。世界の人々は平等に生きるということを学びました。これから、わたしはしよがいをもっている人を差別などせず、しっかり向き合ってささえたいです。

最優秀賞

「不便だけれど、不幸だとは思わない」

玄海小学校 深田 大翔

ぼくは、この話を読んで、耳が不自由な人は、想像以上に大変なことが多いんだなあとおもいました。

この話の中の耳が聞こえない方は、感音難聴といって、補聴器をつけても言葉の区別がつかない障がいをもっています。しかも、自分がどんな声を出しているのか分からないので、発音がはっきりしません。ろう学校ではなく、地元の学校に行っていたので、そこでの生活も大変だなおもいました。それでも頑張っていたので、ものすごい努力をしていたんだなと思います。ぼくだったら、地元の学校に行く勇気も取れるか分かりません。授業も聞き取れないので口元をじっと見ながら読話をしなければなりません。

音の無い世界を想像したら、さみしい、不安な気持ちになりました。「話している事がその場で分かるような卒業式に参加したい。」とい

う気持ちから、自分もみんなと同じ人間であり、耳が聞こえない事以外何もちがわないと訴えかけて、それを聞いた人々が、卒業式に通訳をつけるようなのでくれたそうです。これを読んでいたぼくもうれしくなりました。

聴かく障がいや体に障がいをもっている人のことを少しでも理解したり、協力しあえたら、だれもがみんな、生活しやすくなるんじゃないかなあと思いました

最優秀賞

「わたしのクラスのさっちゃん」

地島小学校 瀬戸山 円

私は、この「ともに生きる」を読んで、体が不自由でも、がんばって

いる人を勝手に、かわいそうと決めつけることはよくないなとおもいました。とくに、「わたしのクラスのさっちゃん」が心に残りました。

「わたしのクラスのさっちゃん」のさっちゃんという人は、今十三才だから本当は、中学一年生のはずです。足も不自由で、言葉もスラスラ話せません。ちなみにこの話は、身体測定の日、さっちゃんが一年生に、笑いながらにげられました。そのことがとても悲しくて次の日の朝の会で話し合ってほしいとお願いしました。さっちゃんのクラスで話し合い、やめてくれと一年生の人たちにお願いするという流れの話です。

私はこのお話の筆者と同様で一年生がひどいなと思います。なぜなら人を笑う者にするとはとてもいけない事だと思うからです。先ほど書いた様にさっちゃんは脳性小児マヒで不自由な体です。つえをつ

くのも言葉を話すのも全部ががんばっているのに大声で笑いながらにげられてとても悲しかったんじゃないかなと私は思いました。

そして次の日の学校での話し合
いでは、クラスの人たちはみんなさ
っちゃんの事を考えていて意見を
出していました。なので、みんなさ
っちゃんの事をとても考えていて
やさしいなと思いました。そんなや
さしい温かみのあるクラスだった
からさっちゃんもがんばれたんじ
やないかなと思いました。この筆者
もさっちゃんの事を思っって自分
のクラスの友だちに自分の気持ちを
伝えていていい人だなと思いました。
そうして一年生にさっちゃんを
笑うことはやめてほしいときちん
とお願いでできていたので少し感動
しました。

そしてこの「ともに生きる」では、
目が悪い人や自閉的傾向を持った
人の話やじこにあった人や、竹ト

ボ作りをした話や、足が不自由な人
の話や耳の不自由な人の話やとつ
ぜん友だちがイジメてくる話など
がありました。体が不自由な人たち
は、がんばっていると思うのに、勝
手にかわいそうと決め付けてしま
うと、やはりいけないことだなと、
私は考えました。だから私は、体な
どが不自由な人がいたら体が不自
由だからかわいそうなど、勝手に決
め付けずに、少しでも手助けをして
いきたいなと思いました。

最優秀賞

「老人ホームへの遠足」を読ん
で

大島小学校 藤島 海琴

わたしは、このお話を読んで、と

ってもいいお話だなあと思いまし
た。それは、わたしのおばあちゃん
も老人ホームにいたので、週に一回
習い事が終わってから、会いに行き
ます。ろう下を渡って、おばあちゃ
んのところへ行くと、周りのおばあ
ちゃんやおじいちゃんたちがニコ
ニコしたり、手をふったりしてくれ
ます。わたしは前におばあちゃんた
ちの世話をしてくれているボラン
ティアの人に聞いてみたことがあ
ります。

「なぜ、おばあちゃんたちは、わ
たしが来るとニコニコしたり手を
ふったりしてくれるのですか？」
すると、ボランティアの人は、

「それは、うれしいからです。ここ
にいるおじいちゃんやおばあちゃ
んは、孫やひ孫が遠くにいたりして、
なかなか会えないけど、みことちゃ
んが週に一回ニコニコしながら来
てくれるのがうれしいんだよ。」
と、ボランティアの人が教えてくれ

ました。

わたしもうれしくなって、ニコニコして手をふったり、頭をさげたりします。

だから、このお話を讀んだ時、いいお話だと思つたし、本当におじいちゃんやおばあちゃんたちに元気で長生きしてほしいと思いました。

平成 28 年度

福祉絵画コンクール 受賞作品集

社会福祉法人 宗像市社会福祉協議会

金賞



中学生の部 「希望」
日の里中学校 石村 光平

金賞



小学(高学年)の部 「思いやり」
日の里東小学校 大藪 幸歩

金賞



小学(低学年)の部 「おつかれ おじいちゃん」
自由ヶ丘南小学校 藤木 暖人

金賞



幼児の部 「おとうとのしょうちゃん」
東郷信愛幼稚園 川上 莉子

銀賞



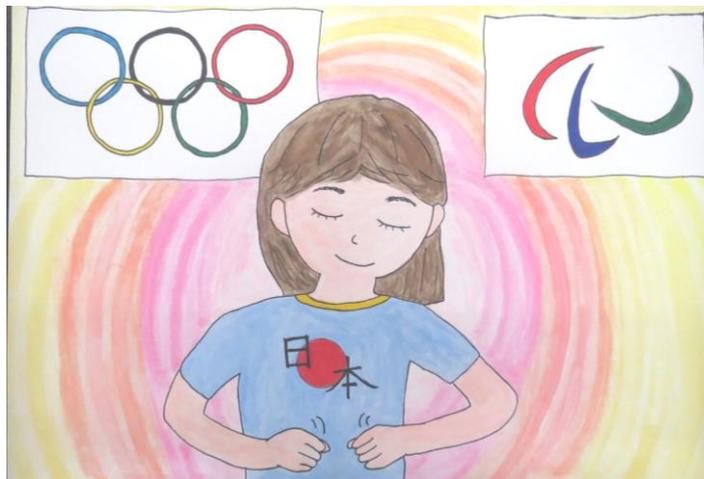
中学生の部 「笑顔の花」
中央中学校 今井 直

銀賞



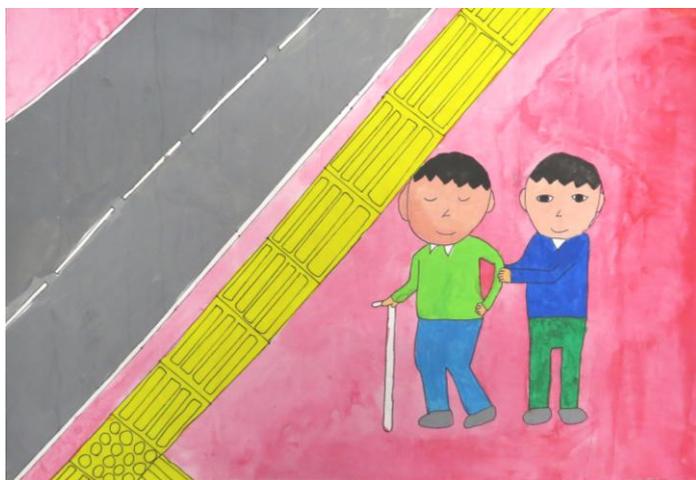
中学生の部 「支えあい」
大島中学校 船越 汐未

銀賞



小学(高学年)の部 「手話で“頑張って”思いよ とどけ」
南郷小学校 須藤 梨湖

銀賞



小学(高学年)の部 「目の見えない人」
日の里東小学校 山下 裕士

銀賞



小学(低学年)の部 「おせきどうぞ」
吉武小学校 山下 愛未

銀賞



小学(低学年)の部 「おじちゃんとおさんぽ」
東郷小学校 池田 実央

銀賞



幼児の部 「うみのともだち」
浄徳寺幼稚園 高原 秀介

銀賞



幼児の部 「じいじとばあばは むしとりめいじん」
日の里幼稚園 中川 結愛

銅賞



中学生の部 「やさしさで笑顔を」
河東中学校 伊東 萌

銅賞



中学生の部 「助け合う心」
大島中学校 宮本 勇翔

銅賞



中学生の部 「思いやりあふれる未来へ」
河東中学校 重見 綾音

銅賞



小学(高学年)の部 「思いやりを大切に」
日の里東小学校 吉武 颯音

銅賞



小学(高学年)の部 「福祉の風船」
日の里東小学校 磯部 皓喜

銅賞



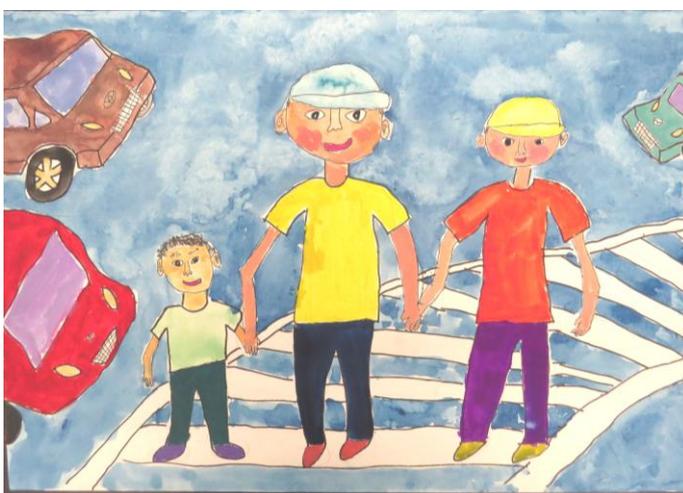
小学(高学年)の部 「助け合う」
日の里東小学校 藤田 啓祐

銅賞



小学(低学年)の部 「はなたばをありがとう」
河東小学校 窪山 みなみ

銅賞



小学(低学年)の部 「気をつけて、わたろうね」
自由ヶ丘小学校 加藤 咲太郎

銅賞



小学(低学年)の部 「花火」
河東西小学校 馬場 一輝

銅賞



幼児の部 「おはなのみずやり」
野ばら保育園 上野 光空

銅賞



幼児の部 「おいしくなあれ (おはなのみずやり)」
野ばら第二保育園 服部 佳介

銅賞



幼児の部 「おじいちゃんと買い物に行きました」
かとう保育園 渡邊 梨央

平成 28 年度
福祉教育読本「ともに生きる」感想文集
福祉絵画コンクール受賞作品集

発行年月 / 平成 29 年 2 月

作成・発行者 / 社会福祉法人 宗像市社会福祉協議会

福岡県宗像市久原 180 市民活動交流館メイトム宗像

Tel : 0940-37-1300 Fax : 0940-37-1393

E-mail : info@syakyo.munakata.com

U R L : <http://syakyo.munakata.com/>